

2017年度ストラスブール大学短期フランス語研修プログラム レポート

「ストラスブールで学んだ3つのこと」

文学部2年 R.O.

今回の研修で自分が何を学んだかという、最初に思いつくのは日常会話、コミュニケーションのためのフランス語です。この研修でのフランス語の学びが日本でフランス語を学んでいるときと一番違うと感じたのは、大学の授業時間以外でもフランス語を使うという点でした。朝ご飯の会場でホテルの従業員の方に紅茶かコーヒーかを聞かれるところに始まり、お店やスーパーのレジでのやりとりや、トラムや電車などの公共交通機関を使うときなど、日常生活の様々な場面でフランス語を使用する機会がありました。私は、ストラスブールへ出発する前は、文法事項をおさらいしたり、簡単な文章を読解したりといった勉強は多少していたものの、挨拶やコミュニケーションのための勉強はしばらくしていませんでした。ですから直前になってあわてて使えるようなフレーズを覚えたり、ほかの人が使っている表現をまねして使ってみたり、フランス語がよくできる友人に「こういうことを言いたいときはフランス語でどのように言えばよいのだろうか。」と聞いて教えてもらったり、と実際に使うためにフランス語の表現や語彙を増やしていきました。やはり学んですぐに使ったフレーズや、使用頻度の高い表現は必要に迫られていたこともこともあり、どんどん吸収していったように思えます。研修の後半にもなると、フランス語でスムーズに買い物ができるようになりましたし、挨拶やお礼を言うときも自然にフランス語が口から出てくるようになりました。もちろん、会話表現を学ぶためには文法の学習が必要不可欠ではありますが、ふだんの名古屋大学での授業を飛び出しての今研修では、より実践的なフランス語を学べたかと思えます。

研修で学んだことの二つ目は、フランス語がほんの少ししかできなくても意外となんとなるということです。特に英語のありがたさをとても痛感しました。今研修はフランス語の学習のためのものでしたから適切ではなかったかもしれませんが、宿泊施設や外出先でトラブルがあって本当に困った時は英語で対応しました。私は決して英語ができる方ではないのですが、やはりフランス語の習熟度と比べると英語の方がまだ自分の言いたいことを表現できたからです。また、最初の方は買い物をするときも、自分のフランス語に自信がなさ過ぎて英語を使ってしまっていたのですが、いざとなったら英語に切り替えて話せば良いのだと途中で気づき、フランス語を使うようになりました。困ったら英語を使えば良い、という安心感が逆に、フランス語の積極的な使用につながっていきました。また研修のプログラムの一環でフランスの一般家庭を訪れた際には、会話に出てきたフランス語の単語で分からなかったものを英語で説明してもらったり、同じ文を英語で言い直してもらったりしてなんとか半日間会話を続けることができました。ストラスブールは観光地であるためか、現地の人々、特に若い人や観光業に携わる人々はほとんどがフランス語の他に英語、人によってはドイツ語も話すことができたので、私のようなフランス語学習初心者でもなんとか二週間やっていくことができました。

英語の他にも、ジェスチャーを使ったり、念入りに下調べをしたりすることも有効でした。なかでも感動したのは美術館にいったときのことです。これもまた研修のプログラムの一つで、ガイドの方がゆっくりと簡単なフランス語を使っていくつかの作品の説明をしてくださったのですが、私には彼女が話していることの半分も聞き取れませんでした。しかし私の専攻である美学美術史学で学んだ知識と断片的に聞き取れたガイドの方のお話から内容を推測することができました。後でフランス語に堪能な友人に聞いて答え合わせをしてみると、だいたい合っていてとても嬉しくなりました。他の分野の勉強がフランス語を理解する助けになるというのは新鮮な発見でした。

そして最後に、この研修で私は多くの人と接して、様々な価値観があることを学びました。現地で出会ったストラスブール大学の先生方や学生たちはもちろん、二週間という長い期間の中で、一緒に名古屋大学から来た日本人学生の間でもたくさん話をしました。特に日本人学生同士は一緒にいる時間も長く、共通の話題も多いのでたわいもないことから真面目な話までいろいろと話し、その中で考えさせられることも多くて、自分が人間として成長できたように思えます。この研修に参加していなかったら、きっとこんなに親しくならなかっただろうという人もいっぱいいて、そういう友人を得られたことも大きな喜びでした。

この研修では、日本とのギャップやふだんの大学の授業とのギャップを感じたり、フランスの文化に戸惑ったりすることも多かったですが、全てが目新しく新鮮でした。語学力が著しく向上するといったことはありませんでしたが、異文化理解や海外で生活する力をつけることは十分にできたかと思います。